

江工学生会報

発行所
江 工 会

島根県江津市江津町1477
島根県立江津工業高校内
電話 (代) 0855-52-2120
郵便番号 〒 695-0011

「平成終わりの年にあたって」

会 長 土 井 正 人

(工業化学科 昭和三十九年卒業)



新しい年を
迎えられ皆様
方には、ご健
勝のこととお
喜び申し上げます。

さて私ごとながら昨年五月をもって四期十六年の市議会議員を晴れて卒業いたしました。今は無職無冠の自由人として残された時をどの様に過ごそうかと模索しております。只母校江工の行く末はどうなるか見届けたいとは思っています。卒業生会として母校発展のため何をすべきか、皆様の知恵と協力、応援を待っています。

二位は四月九日大田市を中心とした震度五強の地震、深夜にとび起こされました。五位には西日本豪雨で江津市においても、江の川の水位が十五・八m増水、浸水被害は旧桜江町中心に二百軒近いもので、昭和四十七年の水害に匹敵するものでした。幸いにも人的被害はなかったのですが「災」を身近に実感いたしました。

その他では人口十万人あたりの百歳以上が百人を超え、全国一番の長寿県となり、江津市においても高齢化率三十八%を超えて右を見て、左を見てもおじじとおばば、人口も年々減少しております。

江工卒業の市議会議員も二人となり、これも七十才となっていますので何日までものやら、市の職員もかつては七十人近くいて三割近くは卒業生でしたが、近年毎年一〜二名は入っていますが、今では十名程になっています。そんな中、入学生の確保が最大の課題です。若者定住として少子化対策、今や全国同じ悩み、その中でどう有効な手立てがあるのか、最大は働く場をどうつくるのか、江工の役割は、地元産業を支える人材の育成につきると思えます。江工があるから、江津に進出したとの企業も近年多くみられます。その様な企業の期待にこたえられるよう、学校現場は日々努力をしております。その学校を支えるのが卒業生会の役割とと思っていますので、どうか母校発展のためご協力をお願いし、挨拶いたします。

続いて生徒の進路状況は、公務員を含めた就職希望者五十七名に対し、県内企業百九十名、県外企業六百二十五名(十月末調査)の求人がありました。ここ数年間の学校での取組や、地域の小・中学校での「ふるさとキャリア教育」により、県内就職希望が多く、約三分の二

「現況報告」

校長 井上 雅彦



江工会員の皆様には、新春をお元気で迎えること

とお喜び申し上げます。平素より、母校の教育活動に格別のご理解と温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

今年度は、全ての学年で二学科構成となり、学科変更の完成年度となりました。教員数は三学科のときより十一人と大幅に減らされましたが一般選抜では、出願時に建築・電気科が一・五六倍と県内で最も倍率が高く、学校全体として十六年振りに一倍を超えました。四月には建築・電気科四十名、機械・ロボット科三十八名を迎え、学級数は減ったもののここ数年で最も生徒数が多い年度で喜ばしく思っています。

一つ目は、外部講師の指導を受けながらものづくり技術・技能の向上及び高度資格の取得や、県内外で行われるものづくり競技大会への上位入賞を目指した「みがく事業」三つ目は、広報活動と情報発信を主に、江津高校と合同で学校新聞の定期発行、地域イベントへの参加、江津ものづくり未来人材研究発表会の実施等生徒募集を目的とした「つたえる事業」です。この三つの事業を今後三年間かけて行い本校教育の魅力化、生徒募集の充実につなげます。

が県内企業に内定し、地域産業を支える人材として活躍する予定です。また、一次合格率も昨年度の百パーセントには及ばないものの九十八パーセントと高く、県内工業高校や工業系学科のある学校の中では最も高くなりました。この結果は、県内外で活躍する卒業生の方々の実績が大きく影響していると考えています。

ある企業からは、「江津工業高校から受験してくれたのだから採用内定する」とコメントいただいたこともあり、本校の歴史の重みを大きく感じる年でもありました。進学希望者は十五名と例年並みですが、四名が四年制大学に合格しています。

最後に、平成二十八年度から県教育委員会が「今後の県立高校の在り方検討委員会」を立ち上げ、その提言を元に昨年十一月に発表した「県立高校魅力化ビジョン（案）」について、浜田市、江津市の県立高校の方向性について報告します。

浜田、江津地区においては、中学卒業生数が県西部で最も多いにもかかわらず、それを生かした高校の配置ができていないと、言いがたい状況であると指摘を受け、その上で五つの視点が示されました。

- 一、普通科、専門学科ともに石見部全体での位置づけの中で議論すべき。
- 二、時代的な要請、生徒の進路指向、地域ニーズなどを踏まえた議論が必要。
- 三、これまでの枠組（普通科、専門学科）を超えて構想することも必要。
- 四、中高一貫など高校教育の新たな枠組みについても研究が必要。
- 五、選択肢を増やすという観点から新たな学科や教育課程等の研究も必要。

今後は、この五つの視点を踏まえながら、浜田、江津地区における魅力ある高校づくりに実現に向けた取組を進めていく。と締めくくられています。

普通科高校においては、平成三十二年入学生を対象に大田、浜田、益田の各普通科高校の地域枠の撤廃、同じく三十三年入学生を対象とした松江地区普通科高校の通学区の撤廃といったような具体的な案が示されたことに比べれば、やや具体性に欠けた案ではあります。が県立高校の統廃合基準については何も示していません。

また、浜田市で行われた、県立高校魅力化ビジョン（案）公聴会において卒業生様よりご意見をいただきましたことも報告します。この意見が今後の魅力化ビジョンに反映されることを願うばかりです。

末筆になりましたが、今後ともかわりませず江工会の皆様のご支援やご協力をお願いします。と祈りいたします。



「名門江津工業高校」
副会長 福田 稔



新年あけましておめでと
うございます。
江工會會員

の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご承知の通り、本年は天皇陛下の退位と新天皇の即位にともなう五月の改元に向け、「平成」にかわる新元号が四月一日以降に公表されます。江工會も役員の改選で、昨年末に役員を仰せつかりました。何もかもが変わって行き、少し戸惑いを感じております。しかしながら、改元の年に役員を務めさせていただきます者として身を引き締まる思いでもあります。

今後、公立学校の統廃合が加速し、生徒数が減少するなか、学校の存続が危ぶまれております。皆様ご承知のように、われらが江津工業は昭和九年の開校であり、八十四年の歴史を誇っております。古いものが良いとは決して申し

ませんが、まもなく一世紀にもなる開校以来の歴史を途絶えさせてはいけなさと切に思っております。わたくしは政治論者ではありませんが、諸先輩方が築かれてきた歴史はとても偉大なものと考えております。元号が変わる今年だから、余計にそのような気持ちになっております。「温故知新」、昔の事柄をもう一度調べたり考えたりして新たな道理や知識を見出し、歴史があるからこそ現在があると思っております。そして、「不易流行」、本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていく。歴史をそのまま何も考えずに受け継ぐだけではなく、現在のわたくしたちが自分で考えることが大切だと思っております。これからのように時代が変化していくかわかりませんが、「江津工業は永遠に不滅」です。

最後になりましたが、副会長は重責ではありますが、微力ながら江工會のために頑張っていく所存でございます。どうぞ、ご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

江工会支部だより

江津支部

「回想」

支部長 池田隆司

(電気科 昭和四十三年卒業)



母校を卒業して早五十年が過ぎました

今日、在学中の部活や運動会等のことは覚えていないのに最近の出来事や、人の名前を思い出せなく困ることが多くなっている今日この頃です。「光陰は矢の如し」の言葉にいわれる日々の過ぎ去ることの速さを日々感じながら残された時間はわかりませんが畑を借り四季を通じて食べられる果物作りを目指しながら過ごしております。

私たちが在学していたころとは変わることのない風景だと思っていた、母校の周辺の山パルの倉庫群・日本レーヨンの跡地は、福祉厚生施設・警察署の施設が集積し、さらに市役所庁舎が移転新築され

ることになっており、変わらないのは高倉通りの松林のみで改めて年輪の重さを痛感しております。

一年生の時、電気理論の授業を受けましたが、講義の内容についていくことができず、一学期は欠点で、夏休みに補習を受けました。高校に入學して初めての通信簿に赤点の一つ、相当ショックだったか今でもはつきり覚えています。今年、恩師の一人である小松原先生が亡くなりました。電気科の先生になった理由については、「戦争に行かなくて済むから」と発言されていたことを思い出しました。

十年前、還暦を記念し同窓会を開催したところ、恩師の森脇先生に出席していただきました。現職の時は補導部の先生として鉄拳が飛んできそうなぐらい意気盛んでしたが、体調を崩し手術をしたことを話され、皆には「元気かな」と温和な笑顔で優しい言葉をかけていただいたことは今でも忘れません。人並みに古希

を迎えられ恩師を囲みでの楽しいひと時を過ごす喜びを感じたところであります。

終わりに、昨年の役員改選で江津支部長を仰せつかり全力で職責を全うする所存であります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

江津市役所支部

「江津市の発展を」

支部長 坂根広晃

(機械科 昭和五十三年卒業)



会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、「地域の足」として親しまれたJR三江線が昨年三月三十一日に、惜しまれながら八十八年の歴史に幕をおろしました。現在は、三江線代替バスが新たにスタートしています。

また、七月に西日本豪雨が発生し、江の川流域の桜江町川越地区を中心に、甚大な被害を受けました。現在、豪雨

災害の復旧、復興に向けた取り組みを行っています。特に、浸水被害に遭われた皆様には一日でも早い復興を願っております。

さて、市役所では昨年の九月に職員採用試験を実施しましたが、技術職の応募がない状況でした。

そのような中、江津工業高校の生徒に江津市役所の技術職場を体験し興味を持ってもらうために、十一月十三日から十五日にかけてインターンシップを開催しました。「建築・電気科」で建築専攻の二名の生徒が、都市計画課、土木建設課、水道課それぞれの技術職場の体験を行い、技術職の歩む職場を体験してもら

いました。少しでも市役所の仕事に関心を持ってもらえればと思います。

また、江津工業高校・ポリテクカレッジ島根合同でワールドカフェが十一月二十六日(月)に江津工業高校体育館で開催されました。

これは、江津市における「ふるさとキャリア教育」の一環として、昨年に引き続き開催しました。地域を支える江津工業高校・ポリテクカレッジ島根の生徒との自由な雰囲気で見聞交換(ワールドカフェ)を通じて「ふるさとで働くということ」がいかに素晴らしいかを伝え、生徒へのキャリア教育の一助とするものです。市役所からは人事担当者と一緒に私も同席し、市役所の組織、事務職と技術職の業務内容、福利厚生などについて説明をしました。

江津工業高校からも、新卒者が毎年一名ではありますが、市役所支部の一員となっております。地元就職先を確保するためにも江津市役所が率先して高卒の生徒を毎年採用していく事は大事だと思います。私たち江津市役所支部は、



歓送迎会の様子

市役所と江津邑智消防組合で構成しております。現在の会員は、市役所十二名、消防四名の総勢十六名の少数ではありますが、各部署で中心的な役割を担っており、母校の校訓であります「質実剛健・不撓不屈」の精神を胸に、江津市の発展のため頑張っているところです。

最後となりましたが、江工会員の皆様のご活躍とご健勝を折念いたしますとともに、江津市役所支部への御指導、ご協力をよろしくお願ひします。

弥栄支部

「防災に思う」

支部長 森 下 政 昭

(建築科 昭和五十三年卒業)



江工会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます

います。皆様方には新年を迎え、益々ご健勝のことと推察申し上げます。

昨年は大雪にならなかったものの四月早々には島根県西

部で地震があり、大田市を中心に大変な被害があり、また、江津市においても七月豪雨で浸水被害で被災されるなど、江津工業高校の校区内においても災害の多い年でありました。被災されました会員様には心よりお見舞い申し上げます。

近年地球環境の異常を肌で感じるようになりました。毎年日本のどこかで大規模な災害が発生し、他人事では済まされない、いつ何時降りかかってくるかびくびくしながら生活しなければならぬ昨今です。我が、浜田市弥栄町でも一昨年七月に線状降水帯の影響により、あれよあれよという間に雨量が増え、初めに避難勧告、避難指示を経験しました。

このように、いつでもどこでも起こりうる自然災害に対し、「自分の身は自分で守る」という考え方から自治会等を主体に自主防災組織を結成し、防災訓練や連絡網の整備、高齢者等要支援者をどのように避難させるか等、地域の皆様で話し合っておくことがいかに重要かを改めて感じ

させられました。幸いに浜田市では六月に総合防災訓練が開催され、一昨年度からは展示型の防災訓練でなく各地区単位で実践的な訓練をする形態に変わり、住民の防災意識の向上に役立ちましたので今後もこの意識を継続していきたいものです。

最後に、本年は平成が終わる新たな幕開けとなる年です。災害のない平穏な年となることを願うとともに、会員皆様方の益々のご健勝、ご発展をお祈り申し上げます。

益田支部

「江工今年度こそ 明るい将来展望を」

支部長 大 石 環

(建築科 昭和三十八年卒業)



平成三十年 二月に各方面に県立高校の将来像について意見を聞いて結論となる。

島根県教育委員会学校企画課が広く意見を求められ地域別の特徴ある高校の在り方提言が多かったと思われる。東部

の松江北・松江南・松江東の三校で設ける通学区は禁止が望ましいと打ち出された。これから全てを踏まえて今後検討課題最良の方向性を見いだして頂けるものと信じています。

益田支部としては先輩諸氏が築き上げた古き伝統歴史を積み重ねてきた江津工業高校の存続を強い要望を願って止まない。

思い起こせば昭和三十年代の卒業生は二百四十、二百五十人は居り、あの松並木の通学路は長蛇の列で一杯でした。

あの当時の労働力の面影は微塵も無い現在とは昔と違い、日本を取り巻く情勢が厳しくなり、少子化の影響で労働力が著しく不足し、国会問題にまで発展し、外国人労働者の入管法を改正し、工業・農業・林業・水産業・介護施設全て賄いきれない現状である。特に都市部では百三十五カ国の人々が住み二人に一人は外国人である。現在百二十七万人居住しており十年で、二・五倍になる。もう日本人・外国人と言ってられない状況。

関東支部

「これからの江工会を思う」

支部長 小笠原 万 正

(建築科 昭和五十一年卒業)



江工会員の皆様、新春をお健やかに迎えることと

お慶び申し上げます。今年四月三十日をもって平成の時代が終わり、五月一日の皇太子様の即位に伴い改元新たな元号となり例年とは少し違った年に成るかと思ひます。

そんな中母校の平成最後の入試要項が発表されていますが、機械・ロボット科四十名、建築・電気科四十名、計八十名の募集定員。県内で平

成三十一年に中学校卒業生数が約六千三十名、浜田市・江市で約六百六十名、この先十年後は約五百八十名に減少すると見込まれるとの事。この様な状況で江工会へ若い方への対応策を急がなければならぬかと思えます。

関東支部でも数年前から私達より若い人の参加がほぼありません。私も江工会に参加して約十五年になりますが、その時から若い人の参加が歓迎会にはありましたが、次の年からは不参加になってしまいました、昨年は新会員の参加が少なく歓迎会も中止という状況でした。先輩方々が築いてこられた江工会を継続していくためには、若い方々の参加が必要です。これまでも先輩方々のご努力で参加者を維持してこられました。

新会員としてこられた方には年賀状等出して連絡を取っていただくつもりでしたが返事がなく、又一年の間に住所が変更になっていたりと連絡がとれない状況になってしまいました。会社でもそうですが、上司

と部下の食事会は少なくない、若い人は若い人同士でという形が多く、こういう事からも若い方が参加されないのかもしれない。

ただなんとか若い方々が参加しやすい、また参加するところが楽しみになる様な会にする事がこれから必要かと思えます。各支部とも連携をしながら、江工会の発展に努めていきたいと思えます。

江工会員の皆様本年も宜しくお願いいたします。皆様のく健康、ご多幸また学校・本部・各支部のご発展ご活躍を心からお祈り申し上げます。

関西支部

「二年を振り返って」

支部長 橋 本 克 己
(建築科 昭和四十二年卒業)



会員の皆様
明けましてお
めでたうござ
います。気持

ちも新たに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。昨年は、地震・大雨・台風と自然災害が多発して、各地

に大きな被害が発生しました。特に、台風が年々大きくなってきており、又、台風の発生も増えてきています。改めて自然災害の恐ろしさが身に染みた一年でもありました。今回の自然災害で被害を受けられた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

そんな中、大阪では、二〇二五年の一大イベントの万国博覧会が開催されることになりました。一年の締めくくりに、朗報が飛び込んできました。

沈み込んでいた大阪に、少し明るい光が差し込んできたかなと思えます。



関西支部総会

そして、IRも大阪で決まるのではないかと思えますが、そうになると、大阪にも建設ラッシュになる事が予想されます。

現在でも各専門分野において人材不足がささやかれており、尚一層の人材が必要となつてきます。

その為にも、各分野の技術育成の専門教育として工業高校の重要性を再認識していただき、技術者の基礎知識を植え付けさせて、どんどんと送り出していってほしいと思っております。

今年こそは良い一年で有りますように、そして良い結果になりますように願っております。最後にありますが、江工会会員の皆様方のご健勝・ご多幸。又、学校・本部並びに各支部のご発展を、心よりご祈念申し上げます。



山口県支部

「江工会の発展を祈願」

支部長 大 屋 節 雄
(工業化学科 昭和三十八年卒業)



皆様、明けましてお目出度うございませす。

昨年春には、三江線が廃止となり、江津工業に通学する江川沿線の生徒はバス通学で苦勞されているかと思えます。

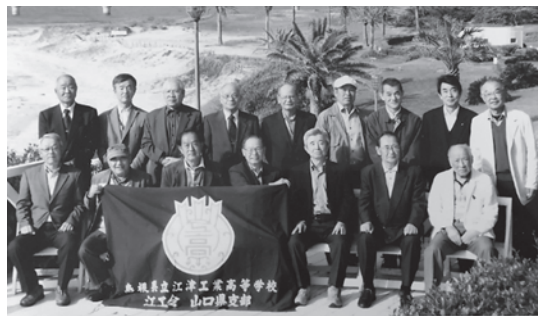
昨年五月十二日開催の江工会本部の総会に久しぶりに江津におもむきましたが、江津工業高校周辺は私の学生時代(昭和三十八年頃)とは隔世の違ひがあります。江津で一泊したくてもこのところ、ホテルが予約できないほどです。こちら山口県支部では、昨年四月十五日に風光明媚な下関市豊北町の角島入口にある西長門「ホテル西長門リゾート」で山口県支部総会を開催しました。本部より土井会長をお迎えし、こじんまりではありましたが十六名の参加者でアットホームな総会となりました。ホテル西長門リゾー

ト

トの露天風呂はバックが角島大橋であり、雄大な景色を見ながらの温泉は疲れを癒すひとときでした。集合写真は角島大橋をバックに撮りました。

総会は、毎年各地区が持ち回りで開催しており、昨年の開催は関門地区の担当でした。今年は山口地区の担当となり、四、五月に総会を開催すべく一月二十七日に運営委員会を開催し、細部を詰める予定でいます。

山口県支部も、高齢化と共に参加者が少なくなっています。二年前から、総会と言うよりは、江津工業卒業OB生の懇親会的な形に軌道修正をすすめております。



山口県支部総会

酔いが回ると気心が一つになり、和気あいあいと大いに語り、若かりし頃の思い出を酒の肴とし、場はいつも盛り上がり、親睦を深めております。

これからも一同元気でいる限り、山口県支部総会を続けて行く所存です。

終りに、江工会本部の益々の発展と皆様方のご多幸をお祈りしております。

同窓会

昨年十一月二十一日(水)、京都四条祇園「花咲」にて十人が集う。今回は遠方から松崎君が参加してくれて、また一段と昔話に花が咲き楽しい一時を過ごすことが出来ました。

先日ご逝去の、村上琢美君の御霊に黙とうし懇親会をスタートした。寂しい限り!!



江津工業電気科卒業 E四十会懇親会

五期生 渡 辺 敏 夫
(電気科 昭和四十年卒業)

私は、江津工業高等学校を一九六五年(昭和四十年)に卒業した渡辺敏夫と申します。突然の投稿ですが、我ら関西の電気科卒業生が、仮称E四十会として、懇親を深めている近況を報告し関西の仲間も江津工業時代を懐かしく想い出話と、五十年間のブランクを急ピッチで埋めている近況を報告します。

特に私事ですが、就職したのが神戸にあるゴム製品製造メーカーの「三ツ星ベルト株式会社」に一九六五年に五名が就職しました。その後皆、バラバラになり疎遠になっていきましたが、ある日同期の益田市出身の寺田氏から、京都方面の有志で同期会を、山科で約十名が集まるとのこと、日程調整をして参加することにしました。山科の駅で待ち合わせ、順番におー！掛け声で何か見た事のある顔だか、中々高校生の時の面影が湧いてこない。私も、お頭の方は寂しい限りですが、何となく面影に不安を浮かべながら名

前を呼び合ったのを思い出します。

こんなことから、今年で三年になり、参加者の範囲も広くなり名古屋、茨木等仲間が多くなりました。皆七十歳以上の高齢者とは思えないほど元気で、今では、年二回期の同期会が定番になってきました。私は江津工業の卓球部で、この会に三名の卓球部の仲間がいるとはまた何かの縁かと思えます。

この年になって思うことは、色々な苦難と、プレッシャーの時代を駆け抜けたと思いますが、人生は出会いのドラマです。色々な人と出会い、その場の繕いでなく、誠意のある対応が、肥やしとなり多くの人財を得ることが出来ました。

私の心境は「行雲流水」という言葉がありますが、こんな人生を歩んでみたところになって思う昨今です。同期の方が、この会報を見られたら一報ください。



◆ 事務局だより ◆

平成三十年
一月～十二月

◇二月十八日(日)

会報五十二号発行

県内外各支部、卒業生在籍地元企業、現教職員、在校生、同窓会等に配布

◇二月二十八日(水)

新卒者入会式

江工会入会式
平成二十九年卒業生
六十一名

江工会会長 土井正人氏
(工業化学科昭和三十九年卒業)より式辞をいただく。

◇五月二二日(土)

江工会理事会・総会

理事会では、土井正人会長(工化科昭和三十九年卒業)の挨拶から始まり、二十九年度事業・決算報

告、役員改選、三十年度事業・予算審議。江工会会則の改定など、すべての議案が承認されました。

懇親会では、各支部からの出席もあり親交を深めることができました。

六月九日(土)

◇六月九日(土)

浜田支部総会

浜田市のジョイプラザにて松浦三男支部長(電気科昭和四十年卒業)はじめ多くの会員の出席にて開催されました。本部より三浦事務局長が出席しました。

◇二月十八日(日)

関東支部総会

霞ヶ関ビルの「東海大学校友会館」において西村

和也(建築科昭和四十七年卒)支部長をはじめ多くの会員の出席にて開催されました。本部より井上雅彦校長・三好良事務局長が出席しました。

◇六月九日(土)

関西支部総会

ホテルヴィスキオ尼崎で開催された。

総会では橋本克己支部長挨拶、来賓挨拶、学校の近況報告、事業報告、監査報告が行われました。来賓は関東支部より前支部長西村和也様、堀越保幸様、本部より土井正人会長・田村実教頭が出席しました。懇親会ではアトラクションとして山崎悌史コンサートがあり、大いに盛り上がった。

討 報

謹んで

お悔やみ申し上げます。

旧職員

真庭 正安

小松 郁夫

会 員

牛尾 俊行

(建築科昭和四十四年卒)

編 集 後 記

多忙な折り、快くご寄稿いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。お蔭さまで第五十三号を発行することができました。

なお、今後とも会報に対しましてご意見、情報等(同窓会報告、会員消息等)がございましたら事務局へご連絡をお願い致します。

(事務局 三浦)



平成29年度 江工会一般会計 決算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 繰越金	1,487,109	0	1,487,109	1,487,109	0	
2 会費・入会金	658,800	0	658,800	658,802	△ 2	H29年度卒業生分61名
3 寄付金	10,000	0	10,000	30,000	△ 20,000	関東、関西支部より
4 繰入金	0	0	0	0	0	
5 雑収入	91	0	91	615	△ 524	定期掛替残金、預金利息
収入合計	2,156,000	0	2,156,000	2,176,526	△ 20,526	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	決算額	差 引	備 考
1 工業教育振興会費	10,000	0	10,000	10,000	0	鳥根県工業教育研究会へ
2 会報発行費	150,000	0	150,000	102,600	47,400	会報52号発行
3 記念品費	42,700	0	42,700	28,182	14,518	卒業生への記念品 (角筒)
4 会館運営費助成	150,000	0	150,000	150,000	0	江工会館運営費の助成
5 通信費	35,000	0	35,000	19,506	15,494	総会案内、会報発送
6 旅費	300,000	0	300,000	165,004	134,996	各支部への旅費
7 会議費	200,000	0	200,000	105,600	94,400	各支部への支援費
8 慶弔費	30,000	0	30,000	4,185	25,815	弔電、祝電
9 雑費	30,000	0	30,000	6,480	23,520	広告料
10 積立金	200,000	0	200,000	200,000	0	積立金
11 予備費	1,008,300	0	1,008,300	0	1,008,300	
支出合計	2,156,000	0	2,156,000	791,557	1,364,443	

平成30年度 江工会一般会計 予算書

1. 収入の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 繰越金	1,384,969		1,384,969	1,487,109	△ 102,140	H29年度から
2 会費・入会金	777,600		777,600	658,800	118,800	H30年度卒業生分72名分
3 寄付金	10,000		10,000	10,000	0	支部からの支援金等
4 繰入金	0		0	0	0	
5 雑収入	31		31	91	△ 60	預金利息
収入合計	2,172,600		2,172,600	2,156,000	16,600	

2. 支出の部

(単位 円)

項 目	予算額	補正額	補正後予算額	前年度当初予算額	増 減	備 考
1 工業教育振興会費	10,000		10,000	10,000	0	鳥根県工業教育研究会への助成
2 会報発行費	150,000		150,000	150,000	0	会報53号発行
3 記念品費	40,000		40,000	42,700	△ 2,700	卒業生への記念品費 (角筒)
4 会館運営費助成	150,000		150,000	150,000	0	江工会館運営費の助成
5 通信費	35,000		35,000	35,000	0	総会案内、会報発送
6 旅費	300,000		300,000	300,000	0	各支部への旅費
7 会議費	200,000		200,000	200,000	0	各支部への支援費
8 慶弔費	30,000		30,000	30,000	0	弔電、祝電
9 雑費	30,000		30,000	30,000	0	広告料
10 積立金	200,000		200,000	200,000	0	積立金
11 予備費	1,027,600		1,027,600	1,008,300	19,300	
支出合計	2,172,600		2,172,600	2,156,000	16,600	